

ほっかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

地震に負けず セミナー復活

第13回日胆地区セミナーが2月16日、日高管内新ひだか町の高静小で開かれ計24人が参加した。



地震で昨年9月の開催が延期になり、5カ月ぶりに行われた日胆地区セミナー

胆振東部から5カ月日胆で

北海道NIE推進協議会と日高NIE研究会の共催。当初は昨年9月6日開催予定だったが、当日未明に胆振東部地震が発生したため延期されていた。これで、北海道セミナーを含む2018年度のNIEセミナー10回がすべて終了した。

高静小の鹿海圭吾教諭は、6年生の社会科「歴史新聞を作ろう」の模様を、子供たちの作品を紹介しながら報告した。地震当日に公開する予定だった授業で、地震後に児童が履修している。子供たちが興味を持った歴史的な事象や人物を調べて、A5判の「はがき新聞」で、「飛鳥時代」「卑弥呼」などテーマごとに模造紙にまとめた。

被災地の教諭も元気に研究討議

北海道胆振東部地震で、第13回日胆地区セミナーはいったん中止を余儀なくされた。しかし「地震に負けない」「準備してきた発表を埋めさせたくない」という日高NIE研究会(盛永

新聞活用アイデア

アドバイザー会議

北海道NIE推進協議会のNIEアドバイザー会議が1月9日、北海道新聞本社NIEプラザで開かれた。アドバイザーら計15人が出席し、1年間の活動報告や今後の活動などについて意見を出し合い、交流を深めた。

日高管内浦河町立荻伏中・盛永美樹さんは、まちづくりに参加している中高生が紹介された新聞記事を道徳科の「郷土愛」の授業で活用したことを説明。根室管内別海町立野付中の飯田雄士さんは、「新聞が目にとまるしかけ」として、生徒玄関に「注目記事」に付箋を貼った新聞を置くなど工夫を凝らした。同町が教育行政執行方針に、NIE活動を積極的に進めることを盛り込んでいることなども紹介した。

美樹会長)など関係者の熱意で、5カ月遅れの開催にこぎ着けた。大きな被害を受けた安平町・早来小の富樫忠浩教諭(NIEアドバイザー)が元気な姿で研究討議の司会を務めた。また日高教育局の湊秀樹教育支援課長も駆けつけ、被災地の実践者にエールを送った。

7月に全新研大会

帯広開催7年ぶり

全国新聞教育研究協議会主催の全国大会が十勝帯広大会として7月30、31日に開催される。8月1、2日には日本新聞協会主催のNIE全国大会宇都宮大会の日程が続ぎ、盛夏の「NIE週間」となりそうだ。

7月の十勝帯広大会は「実社会とのかかわりを意識した新聞教育」新聞のよ



7年前に行われた十勝帯広大会。2012年8月

会などのほか、シンポジウムの基調講演会もある。講

師は未定。2日目の31日は小中の授業公開も行われる。参加費2千円。初日の懇親会費は6千円。問い合わせは十勝新聞教育研究会事務局(更別小・阿部英一教頭 ☎0155・52・2360)へ。

日本新聞協会主催の宇都宮大会は、宇都宮市文化会館(明保野町7)などで開かれる。「深い対話を育むNIE」を大会スローガンに初日の8月1日はパネルディスカッションを行う。基調講演は大村はま記念国語教育の会事務局長で作家

新聞報道に 高い信頼性



NIE研修会で平野さん

北海道NIE研究会主催の実践交流会「冬季研修会」が1月11日、北海道新聞本社(札幌市中央区)で開かれた。道内の教師ら25人が参加した。

北海道NIE研究会主催の「冬季研修会」が1月11日、北海道新聞本社(札幌市中央区)で開かれた。道内の教師ら25人が参加した。

写真11

平野さんは、北海道胆振東部地震の際「SNSで

『札幌市内は全戸で断水す

る」など誤情報が氾濫したのに対し、新聞では記者が現場で確認できた事のみ報道した」と語った。信頼性に大きな差があるとし、社会の中での新聞の重要性を説いた。

続いて昨年10月11日に札幌光星中学高校で行われた道NIE研主催の第23回北海道NIE研究会大会(兼第3回NIE札幌地区セミナー)について、同校の本多由佳さんと市川真衣さんが報告した。

さらに実践発表として、日高町立厚賀中の田倉有紀さん(日高NIE研究会)が「国語科と総合的な学習の時間での取り組みを、幕別町立札内南小の市原秀樹さん

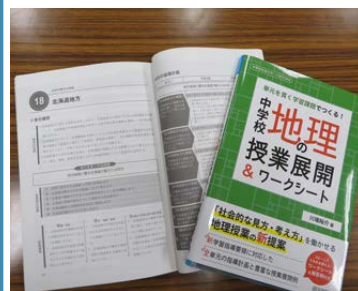
地理のガイド本執筆 川端アロバイザー

NIEアドバイザーの川端裕介さん(函館市亀田中学校教諭)が、中学校地理の指導用参考書「地理の授業展開&ワークシート」を執筆し、明治図書出版から出版された11写真11。

1、2年で履修する地理を世界から日本国内まで分野別で計4章に網羅した。新学習指導要領が目指す

(十勝新聞教育研究会が4年国語科の実践をそれぞれ紹介した。

「深い学び」を想定し、指導計画をつくりやすいよう学習展開例を示し、ま



めにはコピーして使えるワークシートも備わる。「アジア州」の単元では、北海道新聞のデータベースで調べた記事検索数は増え続け、アジアの伸張が目を見く。2017年9月、渡島地区・函館セミナーで川端さん自身が行った公開授業から引用した。川端さんは「北海道のNIE発信の取り組みを伝えたかった」と話している。B5判。135ページ。大型書店などで扱っている。2100円(税別)。同様に歴史編の参考書も近く出版する予定。

NIE実践奮闘記

出合いは学校図書館

元中学校教諭 三上久代



『竹取物語』冒頭部の現代語訳に付けられた見出し。視点によって、見出しがどうかわるかを示したスクリーンを見つめる参加者。スクリーンがかわることに驚きの声があがる。2018年8月の全国学校図書館研究大会(富山・高岡大会)で初めて実施した「はがき新聞」の講座でのできごとだ。

それこそそのはず、示した見出しは新聞社整理部経験のある北海道NIE推進協議会事務局員の力作なのだ。見出し付けは難しい。

プロの力を借りることで、講座は大いに盛り上がった。私とNIEの出合いは、かなり前の学校図書館研修会にさかのぼる。研修会で講師は語った。「新聞は学校図書館資料の一つだ」という

がこない』と言う。でも、数年であつても学校図書館に

先達の励まし／生徒は「新聞を」

新聞がある環境で育った生徒が、やがて親になったとき、我が子の学校図書館に新聞がないことを知ったら声をあげてくれるのではないだろうか」

講師の言葉を、教育とは息の長い取り組みであり、実現のためにはレポートく

人が一緒に学ぶ講座を見つけた。講座の一つで、北海道新聞社論説主幹から新聞の読み方を学ぶ機会を得た。退職の感傷に浸る間もなく、熱心な現役の新聞読者や新聞好きのシニアに出会い圧倒された。複数紙を購入して新聞を語る人。何紙

をを読み比べても自分にあつた新聞がないと、アロバイスを求める人。新聞社の在り方にアグレッシブに持論を述べる人。新聞の読み方を習うにつれて、発言が増えていく高校生。その傍らで椅子から落ちそうになり、講師をあわてさせる高校生もいた。

深い学びに新聞 セミナー真剣に

北海道NIE推進協議会(高辻清敏会長)主催の本年度地区セミナーが昨年9～12月、道内6カ所で開かれた。



熟語の意味調べた



幕別白人小4年

第17回十勝地区セミナーは昨年11月7日、十勝管内幕別町立白人(ちろつと)

び出し、国語辞典で意味を調べた。その後、2人一組で調べた内容について話し合いなどを行った。市原さんは「今回の学習を契機に新聞を読む習慣をつけてほしい」と語った。

非正規雇用って？



第14回胆振地区セミナーが昨年11月27日、室蘭市立桜蘭中学校で開かれ、胆振管内の小中高校の教諭ら計30人余りが参加した。桜蘭中の和崎拓也教諭が非正規雇用をテーマに3年生の公民の公開授業を行った。和崎教諭が非正規雇用、外国人労働者の

英語で要約伝え合う

小樽

第3回後志地区セミナーが昨年12月6日、小樽市立北陵中学校で開かれた。山崎史朗教諭が、道内で

見出し大切に読解

札幌

第3回札幌セミナー兼第23回北海道NIE研究会全道大会が昨年10月11日、札幌市内の札幌光星中学・高校で開かれた。約40人の小中高教諭らが参加した。光星中学の大沢祐輝教諭が1年生の「ルクス社会新聞を活用した学習」の授業Ⅱ写真Ⅱを、同高校の市川真衣教諭が2年生の「現代社会 三権分立」の授業を、それぞれ公開した。大沢教諭は、新聞記事の見出しを考えることで、社会的な事象を多角的に読み取る力を養うことを目指し

雇用形態に関する記事を配布。生徒は教科書と新聞を読んだ後、グループで話し合い、問題点を整理、発表した。実践報告では、室蘭・白蘭小の田端歩教諭がNIEコーナーの設置など学校全体の取り組みを、同小・福山希望教諭も朝学習での記事感想文など学級での取り組みを紹介。伊達高・大地豪教諭は公民の授業で、ICT(情報通信技術)の活用について報告した。

は珍しい英語科のNIE公開授業を行った。3年生30人がジェンダーギャップ(男女格差)に関する日本語の新聞記事を読み、内容を英語で要約して伝え合った。続く実践発表では、同校

た。見出しを隠した、住民基本台帳に基づく北海道内の人口減少について書かれた記事を活用。生徒は4人一組のグループに分かれ、記事を読み解きながら見出しを考えたと。市川教諭は、「1票の格差」を試算した新聞記事を入り口に、国会議員はどのような活動をすべきかを考



えさせた。生徒は国會議員に対して、「広い視野」「誠実さ」「公約を守る」ことが必要など意見を出し合った。公開授業後は、セミナー参加教諭らが公開授業の良かった点(K)、問題点(P)、改善策(T)を話し合う「KPT法」によるワークシヨップを行った。

海外生産増なぞ

釧路

第17回釧路地区セミナーが昨年9月19日、釧路市立興津小で開かれた。釧路管内の教師ら約20人が参加した。公開授業は5年生社会科で、同校の外崎さやか教諭が自動車産業をテーマに行なった。

子どもたちは日本の自動車生産台数、輸出台数、海外生産台数のグラフや関連記事を読み、気付いたことを話し合い、なぜ海外生産が増えたかを考えた。

記事使って討議

函館

第17回渡島地区セミナーが昨年10月16日、函館市内の函館西高校で開かれ、1年生がグループ討議で使う新聞記事活用方法を学んだ。

同校の小牧陽二郎教諭が国語の授業で、2020年の五輪・パラリンピックを見据えたサマータム(夏時間)に関する記事を取り上げた。

記事は見送りを前提にしていたが、生徒は導入の賛否を社会や個人の両面から考えた。

最近の若い世代と接して



新聞記事を読んで意見しあう
函館西高1年生グループ

多様化する新聞観を実感

函館新聞社 編集局統括部長 千葉卓陽



てほしい」という多少の思惑を込めて書いた記事でも、現実にはそう読まれていくわけではなく、むしろ見透かされて正反対の意見を持つこともある—ということ、あらためて知る機会になっている。

とはいえ、弊紙としても、

紙よりは若い世代に浸透しているようで、アクセスランキングの上位に入っているのは事件・事故がグルメ情報に関する記事が多く、議論というよりは地元の情報収集ツールとして活用されているのが分かる。ツイッターの弊紙公式アカウントへの反応だと、その傾向はさらに強くなる。

NIEは1985年の新聞大会で提唱された取り組みだとホームページで知った。新聞がまだ、情報源として絶対的な存在感を示していた時代の話である。しかし、平成も終わりを告げようという昨今は「1億総記者」の時代。あらゆる人がSNSで自らのメディアを持ち、自らの意見を全世界に発信できる。

昨年10月に函館西高校で開かれた「第17回渡島地区セミナーin函館」に参加させてもらった。「紙」の新聞を教職員がプリントして、それを基に生徒たちが議論している授業風景を見学しながら、近い将来にはペーパーレス化され、電子版が授業のベースになっているかもしれないと思いつながら見学させていた。

若い世代の新聞との接し方は、先細りしていく懸念もさることながら、今後ますます多様化していくことだろう。

そのうえで、NIEの活動を通じて若い世代とどう向き合っていくべきか、協議会の皆さまとともに考えていきたいと思っている。

編集後記

日中の最高気温は氷点下10度。「史上最強の寒波」と新聞紙面で見出しが躍った2月8日から1カ月余り。その日は別な意味で忘れられない日になった。

北海道NIE研究会が月1回開催する勉強会に「夜塾」がある。大げさな集まりではなく、現場の教諭らが実践報告や日頃気づいた新聞記事の感想などを思い思いに語っている。

大寒波の日は偶然、集まりの予定日だったが、交通障害で出席者も少ないだろうと見込んでいた。実際はふたを開けてみると、会場に用意したいですが足りなくなる盛況。現役の教諭や元校長はもちろん、今春から教壇に立つ学生たちが三々五々にそろい、雪まみれの姿もあった。列車のトラブルによる遅れもあった。

だが、出席の妨げにはならなかったようだ。

発表も熱を帯びる。「国語は語彙(ごい)力。使えなければ意味がない」。新聞コラム欄を中学生に熟読吟味させるベテラン教諭は言葉の意味や時代背景の事実を調べさせる手作りのワークシートと学習法を公開してくれた。別の中堅教諭は「小学校から国語の訓練をしてくれるとありがたい」と率直な感想を話した。

男子学生は「参加者が多かったのが、先生方のいろいろな実践法が分かった。自分が教師になったときの指導がイメージしやすかった」と将来の教師像を思い浮かべ、抱負を述べた。

寒さなんかには負けられない。(森)

いっしょに読もう!

新聞協会が作品募集

日本新聞協会(東京・千代田区)は、小中高生と高等専門学校生を対象に、家族や友人と共に新聞を読み、語り合った感想や意見を募る「いっしょに読もう!新聞コンクール」を実施する。10回目で、締め切りは今年9月9日必着。

昨年9月10日〜今年9月8日の新聞で興味を持った記事について①選ん

だ理由と自分の意見②家族や友人の意見③それを聞いた後の自分の意見—を専用の応募用紙に記入し、記事と共に窓口にする。ただし、北海道胆振東部地震については昨年9月6日以降の記事、台風21号は同9月4日からの記事を受け付ける。応募用紙は「NIEウェブサイト」からダウンロードできる。問い合わせは、同協会 ☎03・3591・4410へ。